

ブナ等の稚樹の山取と「森の食材」を使った郷土料理の講話を実施

～『土湯の森』の自然再生に向けて～

冷え込みも一段と厳しくなった11月3日(土)、戸沢村の角川を中心に活動されている角川里の自然環境学校と連携して、来年度最上川スキー場跡地に植栽するブナ等の稚樹の山取と「森の食材」を使った郷土料理の講話を行いました。

今回の稚樹の山取は、遺伝子の攪乱を防ぐ観点から、スキー場跡地近くで実施しました。

当日は、古口小学校の5年生を中心とした緑の少年団とその子供たちのご両親、地元住民の方たち36名で500本の稚樹を山取しました。



スコップを手にブナの稚樹を山取



参加者の皆さん

この山取した樹種は、ブナ、ミズナラやイタヤカエデなどスキー場跡地に生育する高木性の樹木です。

子供たちは、ブナなどの広葉樹林の中で「ブナってこれ?」、「これはなんていう木?」などといった声をあげながら、稚樹の山取をしていました。

また、山取中に偶然見つけた「イモリ」に臆することもなく軍手でつかまえるなど、たくましい一面を見せてくれる子供もいました。

予定の500本を取り終えた後、戸沢村農村環境改善センターへと場所を移し、角川里の自然環境学校の出川真也さんとそこで一緒に活動されている方たちから、森からの恵みの食材を使った郷土料理の説明やその森の恵みをはぐくんでいる森林の大切さなどについて、話を聞きました。

今回の「森の食材」を使った郷土料理の準備では、子供たちも参加するとあって、メニューや味付けなどで料理する方たちにもご苦労があったようです。

苦労の甲斐あって、子供たちは普段、家庭ではあまりなじみのないアケビの皮を使った料理、シドケなど少し癖のある山菜料理、ナメコの入った納豆汁などをおいしくいただきながら、持ってきたおにぎりを片手に楽しい昼食となりました。



郷土料理を味わいながら昼食

ブナ、カエデ移植準備OK

緑の少年団
戸沢で作業

広葉樹の稚樹を採り、ポットに移す子どもたち。戸沢村角川



戸沢村高屋の旧最上川
スキー場跡を再生させよ
と展開されている鳥海
朝日・飯豊吾妻緑の回廊
事業(土湯の森)の一環
で、地元の緑の少年団
メンバーがこのほど、同
村角川の林道で、来春
にスキー場跡地に植え

るブナやカエデの広葉樹
の稚樹を採り、移植の準
備をした。

東北森林管理局朝日庄
内森林環境保全ふれあい
センターが主催。古口
小の緑の少年団十二人が
地域住民や保護者と一緒
に、スコップで稚樹を
掘り出し、ポットに移し
た。より自然な状態にし
ようと、いろんな種類の
広葉樹約五百本を確保
した。

その後、子どもたちは
角川里の自然環境学校
に移動。地元主婦によ
る食の教室で、郷土料
理について学び、あけ
びのみそ焼きやぜんま
いいため、納豆汁を味わ
った。